

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

超我の奉仕 Service Above Self

RI 会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー



奉仕の理想を求めて

富津中央 RC 会長 白石 幸久

2005～2006

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12

RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.1973 第44回例会 2006. 6. 15 曇

点 鐘 : 白石幸久 会長

進 行 : 飯倉清種 副 SAA

ソング : それでこそロータリー

### 会長挨拶

白石幸久 会長

皆様こんにちは、今年度の例会も残り3回となります。最後まで会員の皆様宜敷御願ひ致します。

さて本日は2人の会員に関するニュースを紹介します。

#### 1. 小野会員の妹様ご夫婦に関する記事

新千葉新聞18年6月9日(金)

第39回袖ヶ浦市音楽協会定期演奏会「ビバ！コーラス」が11日(日)午後1時30分から袖ヶ浦市民会館・大ホールで同市教育委員会の後援により開催されました。ゲストは清見台混声合唱団指揮者でバリトンの小野忠雄氏。「日本歌曲」「六人の作曲家によるドイツ歌曲」「モーツァルト生誕250年に寄せて」を歌い、ピアノ伴奏は小野楊子さんでした。

#### 2. 三井会員(マザー牧場)に関する記事

日本経済新聞18年6月15日(木)

核家族の増加や少子化に伴う世帯人数の減少など客層は確実に変化している。最も顕著に現れているのがマイカー台数の増加で乗用車1台あたりの人数は減少傾向。客数維持にも駐車場が必要と、4月約1億円を投じて800台分の駐車場を増設した。子供が減ったのとは対照的に愛犬を連れてくる入

場者は増えており、今秋約3500㎡のテニスコートを犬を放し飼いに出来る運動場(ドッグラン)に切り替える。団塊世代の一斉退職が進めば、孫と一緒に外出する祖父母も増えるはず。こう読んで7月に「マザーファームツアー」を新設する。

### 会長報告

#### (1) クラブからの補助金について

地区大会、塩山 RC 訪問、ゴルフ大会

……各 3,000 円

車提供者……10,000 円

### 幹事報告

大網庄一郎 副幹事

#### 1. 週報受領

富津シティ RC、木更津東 RC

#### 2. ガバナーエレクト事務所より

「2006年度ガバナー公式訪問について」

10月19日(木) 予定

#### 3. 薬物対策推進本部より

「ダメ、ゼッタイ」運動の実施について

### 委員会報告

#### 親睦委員会

高橋裕之 親睦委員長

6月29日(木)の最終例会は、会長・幹事慰労夜間親睦家族例会とする。 18:30より、さざ波館

〒293-0042 富津市小久保2868

さざ波館

Sazanami-kan

2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,

Zip code 293-0042

Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304



## 会報委員会

渡辺 務 会報委員

第43回例会会報会長報告の内、6月プログラムを誤刷しました。お詫びして訂正します。

正：6月15日 財団委員会卓話

6月22日 原田会員卓話

6月29日 最終夜間家族例会

ついでながら、本日午後7時からガラクタコンサートの打合会を岩瀬海岸の商工会会館にて開催します。多数会員の出席をお待ちします。

## ロータリー財団委員会

渡辺 務 委員長



### <マッチンググラント経過説明、終了報告>

2006年5月18日、一通の e メールが私宛に届きました。

Dear Rotarians Chen and Watanabe で始まるその手紙は、昨年度より私たちが取り組んできたマッチンググラントの受付番号54788の完了を伝えるメールでした。たった10数行の英文のメールですが、これは、私にとって大変感慨深い内容でありました。

今から約2年前、2004年7月6日、昨年度の初め、私が会長を拝命してまだ数日しか経たない、これからロータリークラブをどう運営してゆくか途方にくれている私に、追い討ちをかけるような1枚の FAX が、嘉義南区扶輪社より届きました。

陳 宋瑋という男の名前でたどたどしい日本語で書かれたその FAX には、マッチンググラントを嘉義南と富津中央でやりたい旨、そしてクラブ内でコンセンサスをとり書類にサインをして至急返信してほしいとの内容でした。 マッチンググラントという言葉さえ知らなかった私は、何が起ころうとしているのか

検討が付きませんでした。ともあれ、クラブ内の先輩、そして当時の地区委員の関係者に手当たり次第に質問をし、少しずつ内容の把握に努めました。

具体的には、クラブ内で伺ったところ、どうやら姉妹クラブ及び地区の間で共同で資金を出し合い、RIの財団の資金を同額程度補助してもらう寄付事業であるという大まかな知識は得られました。しかし、当クラブでは経験がないので実際にどう取り組んでゆくかの方法が解らず、次のステップとして地区の経験者に話を伺おうと考えました。 当時会長セミナーや地区の会長を対象とした会議の中で、当時のWCSの委員であり、且つ私がただ一人、地区委員の中で、存じ上げている上総ロータリークラブの野村進一氏に相談をし、氏の紹介で千葉南RCの金谷典幸氏にお話を伺うことが出来ました。金谷氏は、数年前に所属する千葉南RCでホストパートナーとしてマッチンググラントを完了させた際の中心的な人物でした。 氏曰く、プロジェクトを実施する国のクラブ、つまりホストパートナーと協力するクラブ、インターナショナルパートナーで仕事の内容が違うこと、インターナショナルパートナーは基本的に、相手国から送られてくる書類にサインをして、速やかに返送すればそれで済むのだということ、サインをして同意の意思を表明するときの注意点などを、丁寧に教えてくださいました。 まず協力する相手国のクラブが信頼するに足るクラブかどうか、お互いの友好関係はどの程度のものなのか、実施するプロジェクトの内容は妥当なものか？などいくつかのチェック項目を確認してサインをするようにとの事でした。

嘉義南区扶輪社と当クラブの信頼関係や、友好の実績にはまったく問題がないことは、すぐに確認できました。次に阿里山の高砂族に移動図書館と、パソコンを寄付するという今回のプロジェクトの妥当性について、当時、高砂族という民族についてまったく知識のなかった私はまず図書館に行き、台湾に関する資料、高砂族に関する資料、日本と台湾の歴史的関係についていろいろと調べることからはじめました。 その中で先の大戦での日本と台湾の関係、台湾内での先住民族の立場などをほんの少しだけ知り得たところで、ようやく参加できる確信を持ちました。もっとも、嘉義からFAXがきた直後に

当クラブの会員の皆さんからは、快諾、了承をいただいていたのでその時点で躊躇なくサインをいたしました、当時の志波幹事の承認、サインもいただき、早速書類を嘉義に送りました。これが2004年9月初旬のことであったと思います。このときには同時に、当時のガバナー杉木氏のサインもいただき送付しました。

その後同年11月に、嘉義南区扶輪社からRIに書類を送付し、受理した証明となる受付番号が届いたとの通知がありました。この受付番号が最初に申し上げたく受付番号54788であります。

その後、しばらくの間何の音沙汰もなく、どうしたのかと不安感がよぎってきた頃、嘉義より一通のFAXが届きました。内容はもう一度書類にサインをして送れとの事。先に送った書類に杉木ガバナーのサインをいただきましたが、実はガバナーのサインだけではなく、地区財団委員長のサインも必要であったようで、この根本的な間違いを気がつくまでに、数ヶ月を要してしまいました。

ちなみに、RIからの連絡は、すべてEメールが届きますので、且つ内容はすべて英文です。

当時私のパソコンの具合がよくなかった事も手伝いまして、ずっと保留のまま時間を経過してしまったという失敗がありました。もっとも同じ内容のEメールは嘉義のクラブの会長にも送られていたようです。

とにかく、当時地区財団委員長の井上 隆夫氏に連絡をとり、書類を送り同日中にサインをいただくという荒業を経て、再送付したのが2005年5月頃のことであったと思います。7月14日には、1400ドル(レート108円/ドル)をRI日本事務局に送金し実際の手続きは完了しました。

その後、ホストパートナーの嘉義南の皆さんの努力で、三菱自動車製(MADE IN TAIWAN)移動図書館とACER Travel Mate というパソコンを準備し、3月22日に盛大な式典とともに贈呈式が完了しました。

細かい手続きや内容の把握など、すべて英文のため大変苦労しましたが、実際にインターナショナルパートナーがやった事は、サインをしてお金を送ったという事実のみです。しかしそのプロジェクトには、相互クラブの信頼感や、地区ガバナーをはじめ、地区役員の方々の親切丁寧な助言、協力があっ

てこそ成立したものです。協力いただいた皆さんの善意の上に成り立っているプログラムでありそのプログラムにほんの少しではありますが、参加できた喜びを忘れることは出来ません。

又、私のようなものに全権を任せていただいた会員の皆さんに心から感謝いたします。

## ニコニコ BOX

原田雅式 親睦委員

白石幸久 渡辺会員の卓話に感謝。

大網会員の幹事代行に感謝。

渡辺 務 卓話をさせていただいて。今夜の打合会も宜しく。

小野恒靖 会長に妹夫妻の活動を御紹介頂いて。

合計 3,000 円

## 出席報告

佐生一郎 委員長

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	23	22	1		95.65%
前回	23	21	2		91.30%

## 近隣クラブ例会日(括弧書き以外 12:30)

月	君津、袖ヶ浦
火	富津(最終例会 18:30)
水	木更津東、富津シティ(最終例会 18:00)
木	上総、木更津

君津 RC	ホテル千成	0439-52-8511
袖ヶ浦 RC	レストランすずとみ	0438-62-5270
富津 RC	千葉信用金庫天羽支店 2F	0439-67-0541
木更津東 RC	ホテルロイヤルヒルズ八宝苑	0438-23-0211
富津シティ RC	ホテル喜楽館	0439-87-4126
上総 RC	割烹旅館 山徳	0439-27-2003
木更津 RC	東京ベイプラザホテル	0438-25-8888

〇〇〇 会員投稿 飯倉清種 〇〇〇

おにぎりは何故美味しいのでしょうか？

おにぎりというのは何故あんなに美味しいのでしょうか。あまり食欲がないときでもおにぎりだとなつて手が出てしまうから不思議です。壺漬のタクアンをかじりながら食べる味わいは格別です。我々日本人は農耕民族のせいで生来米食が体に合っている為もあるかも知れません。

おにぎりの歴史は古く、平安時代には「屯食」という言葉で「源氏物語」や「紫式部日記」に出てきます。歴史学者の故樋口清之先生の説によると「屯」というのは「にわか」とか「急いで」で「手早く食べられる」のが「屯食」。もっとも当時はうるち米ではなくもち米を蒸した「強飯」でしたから、今のおにぎりとは違って強飯を包んだものを「包み飯」とか「屯食」と言い、貴族達の行事の際に待機している供の者に振る舞ったと言われています。それが戦国時代には保存と携帯に便利なことから兵糧食となり、江戸時代になると旅行や行楽の弁当として庶民に間にも普及していったというのが通説です。

ところが「おにぎりはなぜおいしいのか」ということについて、太宰治は「斜陽」という小説の中で「あれはね、人間の指で握りしめて作るからですよ」と、主人公の母親に言わせています。面白いのは、このお母さんは旧貴族なので「おにぎり」とは言わずに「おむすび」と言っていることです。そこで「おにぎり」「おむすび」という呼び名はどのあたりで違ってくるのかという疑問が湧きます。これについては、交通旅行評論家の生内玲子さんが「おにぎりおむすび風土記」という著書の中で「私の取材では、北海道、東北、関東はむすび、関西、中国、九州、四国ではにぎりがほとんどでした。そして北陸、中部は両方が混ざり合っていました」と書いています。千葉県のある地方では、大きく握ったのが「おむすび」、小さいのが「おにぎり」という例もあったそうです。また丸とか三角とか俵方とか言う形の違いと呼称との関連はあまりなく「どちらかという丸系がむすびで、三角系はにぎりがわりと多かったように思います」とのことです。呼び方については千葉県のような例は珍しく、人が握ったから「おにぎり」というのが俗語。「おむすび」は宮中の女官言葉から出たというのが一般的な解釈のようです。

したがって「斜陽」のお母さんは「おにぎり」とは言わずに「おむすび」と言ったわけです。何れにしても人が心をむすんで(込めて)握ったものは「おにぎり」でも「おむすび」でも美味しいことになりません。  
\*参考文献:フードワーク社「ごはん」

〇〇〇 会員投稿 志波 克 〇〇〇

最近のベストセラーには数学に関する言葉がよく材料にされている。数学のトピックを使った小説①博士の愛した数式(小川洋子著)、②ダ・ヴィンチ・コード(ダン・ブラウン著)の「フィボナッチ数列」、「黄金比」、③国家の品格(藤原正彦著)では数学の大天才「ラマヌジャン」、等々。

私は数学とは縁のない綿屋・水道屋の退職者だが、興味があるので雑識を寄せ集めてみた。勿論記述内容の正しさには責任を持たない。

①に出てくるオイラーの式、 $e^{\pi i} + 1 = 0$ 、これはオイラーの公式  $e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta$  に  $\theta = \pi$  を代入して出来たものだが、こういう式を数学では美しいと言うのだそう。なぜならこの式は数学の基礎の重要な要素を全て含んでいる。即ち自然数の初めの1、加法の演算、数学を飛躍的に発展させた概念の0、重要な超越的常数  $e$  と  $\pi$ 、複素数の定義単位  $i$ 、そして、 $e$  を通して無限数列に関係し、これらを簡潔に結びつけている。

このような美しい式を三千も四千も見つけているのが、③に出てくる人間とは思えない大天才シリニヴァスタ・ラマヌジャンである。

「フィボナッチ数列」は1から始めて前二つの数の和を次の数にする数列で、1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, …と続く。この数列には多くの秘密が隠されていて、例えばどれかの数をその前の数で割ると、 $8 \div 5 = 1.6$ 、 $21 \div 13 = 1.61538$  のように数が大きくなるほど、あの有名な黄金比 1.6180339… に近づく。また生き物の成長や発生に関係した数列でもあるらしい。

人間は長方形では縦横の比が黄金比に近いか等しいものを好み、ギリシャ建築やルネサンスの美術に多くの黄金比が見られるという。

因みに、普通テレビの画面は縦3・横4だから、比は 1.333、ワイドテレビは縦9・横16でその比は、1.777 である。